

市立図書館が空調設備等にエコス事業を導入

エコス事業は、原則的には、空調設備等を改修してエネルギー効率を高め、光熱水費の削減目標を設定し、削減された費用により分割して改修費用を支払っていくという考え方に基づいた事業です。

事業者から改修の企画提案を基に設計と施工の一括発注で工事内容の最適化を図り、改修費用の初期費用は事業者(企業)が持ち、自治体が分割で支払っていくとするもので、今回は10年契約として計画されています。

市立図書館は、もともと多額の光熱水費を負担しているわけではなく、この事業での削減額は限られていることと、屋根の改修なども同時に行わなければならないことから、削減される費用で分割費を賄うということはできないので、市が改修費用を上乗せすることで、円滑な事業推進を計画しているとの説明がされました。



市がミズノ(株)と包括連携に関する協定書を締結

沼田市はこのほど「スポーツを通じて健康でより豊かな生活をおくることができるまちづくりの推進を図ること」を目的として、ミズノ株式会社との包括連携に関する協定書を締結しました。

内容の中には、地域のスポーツ振興や健康づくりの拠点となる市内スポーツ施設の管理・運営に関することなどが、連携して取り組む事項として明記されています。



カスリーン台風から70年

～いま考える水災害対策～パネル展

日時:8月28日(月)から9月5日(火)まで

場所:市役所市民ホール 災害の資料から→

表コラム3-1 昭和22年9月洪水による流出土砂量河川別内訳表(群馬県調査)

河川	流出土砂量(立方メートル)
利根川	113,70
利根川	1,897,800
利根川	21,70
利根川	955,000

2020年にはすべての核兵器の解体を

沼田市が原爆パネル展を開催

沼田市は8月11日から17日、中央公民館で「原爆・戦争遺跡パネル展」を開催しました。沼田市は「非核平和都市宣言」を行い、日本非核宣言自治体協議会や平和首長会議にも参加しています。非核宣言自治体数は日本で1,615自治体、全自治体の90.5%になっています。平和首長会議は日本だけでなく世界に広がっており、現在162か国・地域、7,417都市になっています。



パネル展の会場の様子

今回のパネル展でも紹介されている平和首長会議の「2020ビジョン」は、2003年にかかげられ、1.核兵器の即時実戦配備解除。2.「核兵器禁止条約」締結に向けた具体的交渉。3.「核兵器禁止条約の締結」。4.2020年を目標とするすべての核兵器の解体。を目標としてきました。このうち2と3は、7月7日国連本部での交渉会議で、核兵器保有国やそれに追いつく日本政府などの妨害を排して、122か国が賛成して「核兵器禁止条約」が採択され、実現しました。

今回の出来事は、いまや世界を動かしているのは大国ではなくてそれ以外の多くの国々と世界の市民の力の結集ということが証明されました。市のパネル展もその一つではないでしょうか。

今回のパネル展では、戦争当時、朝鮮人や中国人を強制労働させつくった上川田陸軍火薬工廠地下工場や岩本発電所導水トンネル工事などの資料や東部第41部隊(旧迫撃第1連隊=毒ガス戦部隊)の兵舎の写真などが展示され、その兵舎が戦後、沼田東小、沼中の校舎として利用されている写真も展示されました。



きのこ雲の写真

小、中、高、左が沼中校、右が東



2017年8月20日 No.848

いのさんニュース

発行所沼田市下久屋町983 ☎23-1519

井之川博幸議員活動地域版部内資料